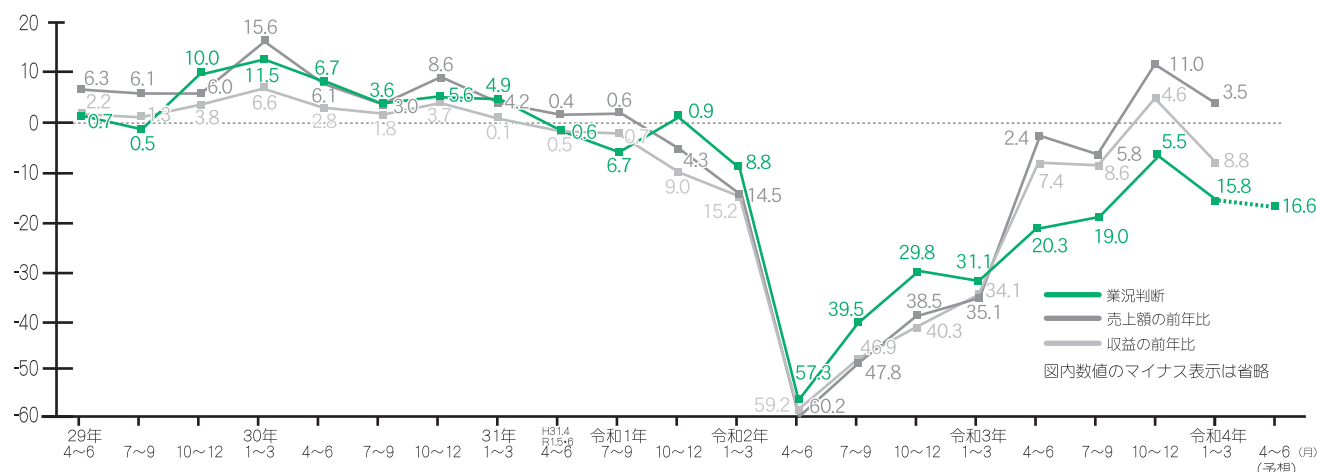


景 気 の 概 況

●経済・物価の現状と見通し

わが国の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響などから一部に弱めの動きもみられるが、基調としては持ち直している。海外経済は、国・地域ごとにばらつきを伴いつつ、総じてみれば回復している。ただし、ロシアによるウクライナ侵攻を受けて、国際金融資本市場では不安定な動きがみられるほか、原油などの資源価格も大幅に上昇しており、今後の動向には注意が必要である。そうしたもとで、輸出や鉱工業生産は、供給制約の影響を残しつつも、基調としては増加を続けている。また、企業収益や業況感は全体として改善を続けている。設備投資は、一部業種に弱さがみられるものの、持ち直している。雇用・所得環境をみると、一部で改善の動きもみられるが、全体としてはなお弱めとなっている。個人消費は、感染症の再拡大によるサービス消費を中心とした下押し圧力の強まりから、持ち直しが一服している。住宅投資は横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は高水準ながら弱めの動きとなっている。わが国の金融環境は、企業の資金繰りの一部に厳しさが残っているものの、全体として緩和した状態にある。物価面では、消費者物価(除く生鮮食品)の前年比は、携帯電話通信料の引き下げの影響がみられるものの、エネルギー価格などの上昇を反映して、0%台半ばとなっている。また、予想物価上昇率は、緩やかに上昇している。先行きのわが国の経済を展望すると、新型コロナウイルス感染症によるサービス消費への下押し圧力や供給制約の影響が和らぐもとで、外需の増加や緩和的な金融環境、政府の経済対策の効果にも支えられて、資源価格上昇の影響を受けつつも回復していくとみられる。(日本銀行 3月発表)

●業況判断及び売上額・収益の前年比DIの推移(全業種合計)



この調査のご案内

- 1.調査の目的** 埼玉県および東京都の一部地域における中小企業の最近の景気動向の把握と、当金庫お取引先等への経営情報の提供を目的に実施しています。
- 2.調査の時期** 令和4年3月1日(火)～7日(月)
- 3.調査の内容**
 - ・前期(令和3年10月～12月期)と比べた
 - ・当期(令和4年1月～3月期)の実績
 - ・当期と比べた来期(令和4年4月～6月期)の予想
- 4.調査対象** 当金庫お取引先企業数 460社
回答企業数 456社 (回答率 99.1%)
- 5.調査方法** 調査員による面接聞き取り法、またはご回答企業による直接記入法
- 6.分析方法** この調査の分析はDI(ディーアイ)を景気判断の指数として用います。DIは、「増加」「上昇」「楽」と答えた企業割合から「減少」「下降」「苦」と答えた企業割合を差し引いた数値のことです。この数値がプラスかマイナスかそしてその大きさによって景況の動きを時系列的な推移の中で分析しようとするものです。なお、「増加」には回答項目の「やや増加」を「減少」には「やや減少」を含みます。「上昇」「下降」等も同様です。従って、グラフも「増加」「不变」「減少」等の3区分で表示しています。

7.業種別・従業員(除くパート)規模別調査対象企業数

	製造業	卸売業	小売業	建設業	不動産業	サービス業	合計
1～4人	18	17	55	25	36	17	168
5～9人	28	8	18	27	13	10	104
10～19人	19	12	8	27	4	10	80
20～49人	20	4	10	13	6	5	58
50～99人	7	2	2	4	1	2	18
100人以上	8	2	5	2	2	9	28
合計	100	45	98	98	62	53	456

全業種総合

業況は悪化がさらに強まる

1 業況

当期（1～3月期）の全業種の業況判断は、前回調査時における当期の予想（△9.9）を大幅に下回りました。来期は悪化幅がさらに拡大する予想となっています。

全業種総合の業況判断のDI（「良い」-「悪い」）は、前期△5.5 から当期△15.8 と悪化幅が大幅に拡大しました。来期は△16.6 とさらに悪化幅が拡大する予想となっています。

業況を天気図で見ますと、総合では前期「薄曇り」から当期「曇り」になりました。来期は「薄曇り」の予想となっています。

業種別では、当期は、製造業が「晴れ」から「薄曇り」に、卸売業が「薄曇り」から「曇り」、小売業が「薄曇り」から「雨」にそれぞれ悪化しています。不動産業が「晴れ」、建設業、サービス業は「薄曇り」が続いています。

来期は、小売業が「雨」から「曇り」に好転、製造業が「薄曇り」から「曇り」、不動産業が「晴れ」から「薄曇り」に悪化する予想です。建設業、サービス業は「薄曇り」、卸売業「曇り」が続く予想となっています。

2 売上額

売上額のDI（「増加」-「減少」）は、前期11.7 から当期△4.4 と大幅に減少し悪化に転じました。来期は△1.9 と減少幅が縮小する予想となっています。

3 収益

収益のDI（「増加」-「減少」）も、前期5.3 から当期△14.9 と大幅に減少し悪化に転じました。来期は△11.0 と減少幅が縮小する予想となっています。

4 資金繰り

資金繰りのDI（「楽」-「苦しい」）は、前期△4.5 から当期△8.9 と厳しさが増しました。来期は△8.7 とほぼ横ばいで推移する予想となっています。

なお、民間金融機関からの借入難易度DI（「容易」-「難しい」）は、前期3.1 から当期△2.0 と難しい状況に転じました。

5 設備投資

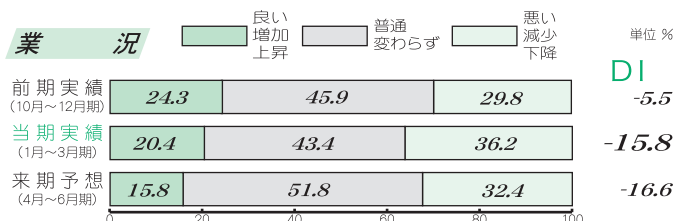
設備についての過不足感は、前期△9.0 から当期△9.8 と不足感がやや強まりました。来期は△9.3 とわずかに弱まる予想となっています。

（注）この天気図は本調査のDIを総合的に判断し作成したものです。

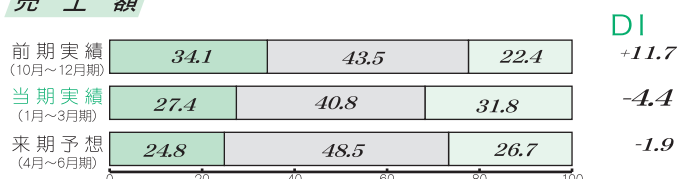


前 期	当 期	来 期

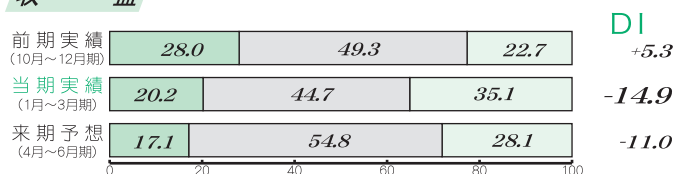
業 況



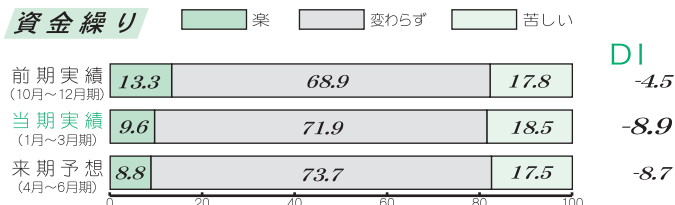
売 上 額



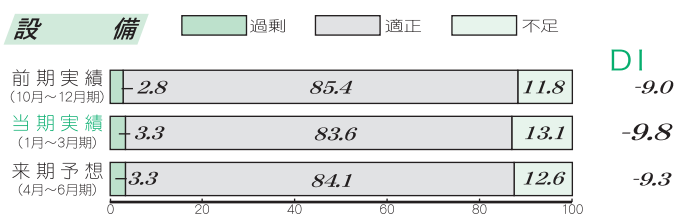
収 益



資金繰り



設 備



●設備投資の実施割合

